

支援募金継続の懇願

海の博物館館長

SOS運動代表

石原義剛

この度、弊財団は公益財団法人として生まれかわりましたが、相変わらず貧乏な民間の財団であることにかわりありません。決して運営上に公的資金支援が寄せられたわけでもありません。逆に財団の経済的な自立が強く求められています。自分たちの努力でやりなさい、というわけです。

わたくしどもの財団は、ただ日本の文化を守る博物館の運営に専念していますが、いま日本国家は文化を、とくに伝統文化を見捨てようとしており、歴史・民俗の博物館を切り捨てようとしています。まさに弊博物館は苦境にあります。

最近年、膨大な資料を収集保存しながら、解散に追い込まれた博物館ができてきます。そのような状況を皆さまはどのようにお考えでしょうか。

海の博物館は、過去5年間、必死の運営努力を重ねてさらに皆さまの大きなご支援を得て、一步一步着実な運営への軌道に乗せて参りました。

この間、開館当初の目標でありました5万点の資料収集を達成し、6万点に近付きました。もちろん展示活動、教育普及活動も活発につづけ、高い博物館評価をいただくようになりました。

とくに「海の環境を守る」運動と、「海女文化」の継承や「海洋教育」促進を目指す実践的活動は多くの方々に認められてきました。

それでも厳しい経済運営を迫られつづけています。改めて皆さまに支援募金をお願いいたします。その点では公益財団法人への移行は、唯一、利点として寄付募金に対して免税措置が講じられるようになりました。

弊博物館の活動に御理解をいただき、重ねて支援募金を懇願するものでございます。

平成二十六年四月吉日